



夏季要請行動

7月26日(火) 2時~4時
15分、県庁昭和庁舎において、第一部(施設・設備要請)、第二部(各課要請)の対県教委要請を行いました。執行部、専門部ほか現場も含め、13名の参加でした。以下は概略報告です。



《第一部》施設・設備

【総務課 3名・管理課 2名】の計5名

【高教組】本部6名、各職場7名の計13名

・教育条件整備では、特別教室のエアコン設置を要請。

・多忙化解消で削減した業務内容を公表するよう要望。過密労働解消には大幅な職員増か業務削減しかない」と訴え。

・非常勤職員の待遇改善については、当事者から直に制度改善を要請。非常勤職員を単なる駒合わせに扱う姿勢を改め、通年で安心して働ける制度構築を要請。

《第二部》各課要請

【総務課】角田次長以下3名

【高教組】春山(前東) 茂木(前商) 東宮(青翠) の3名

主な内容は、「非正規職員の待遇改善」「高校総体総合開会式の簡素化」「部活指導

の長時間勤務解消」「定期考査のPDF化」「高校入試へのマークカード導入」など。

・県総体総合開会式については、「教育長は簡素な形式を評価しており、コロナ収束後も以前のような大規模なものにはならないだろう。」「高校入試については、「客観的な内容に関してはマークカード導入には抵抗がないのではなか」という総務課発言あり。最後は、定年延長について「大まかなところは県職連交渉、細部は各単組の秋の交渉で」という主旨の発言。

【学校人事課】小池次長以下9名

【高教組】萩原(伊工) 吉澤(勢農) 原田(安総) 田中(大泉) 坂田(清陵)、内川(高経附)の6名

・原田「賃金モデルがなく将来の見通しが立たない」「民間委託ではなく新規採用を」「太田フレックスで同時に現業2人が異動、考慮を」「地公臨現業の年金シミュレーシ

ョンは月四万。少なすぎるの増額を」



・田中「採用時の司書記載不備。同期採用との給与格差」「有資格者の県外流出。司書の正規採用」「資格取得研修制度の充実」

・坂田「非常勤職員の雇用・勤務条件の改善」「採点、準備、成績処理は付随でなく本来業務」「年休・特休増加」

・内川「高齢者雇用・勤務条件の改善」「多様な勤務制度の導入(高崎市は8割勤務8割給与)」

・吉澤「給特条例の改正」「多忙化・過密労働の解消(スクラップ&ビルド)」「地公臨教職員の正規採用と賃金改善」

・萩原「部活指導、超勤、長距離通勤、ハラスメントなど、女性アンケートの実態」

【高校教育課】

小和瀬次長以下4名

【高教組】澁谷(前高特) 今井(前工) 坂本(高経附) 大島(前女)の4名

高校入試

入試一本化に向け長文記述式の解答をやるよう要請。デジタル採点システムの導入を要求。

学校説明会・体験入学

準備等が大変。HPを見れば済む。県教委の首頭で、なくしてほしい。

観点別評価

やるなら現場の実態をよく見て多忙化を解消し、きちんとできる環境整備を。

スクールソーシャルワーカー

特別支援学校や定時制、フレックススクールでは家庭が



困難を抱えているケースも多い。小中での導入では実際に機能しておらず、高校でも十分に活用されていない。小中と高校の連携も必要。

定期考査のPDF保存
保存は「PDFのみでよい」と県教委は明言。

雑務の解消
知事肝いりの選管委託事業等、金のかかる雑務はやらずに済むようにしてほしい。

生徒指導・校則
多様性と包摂の流れに逆らい、学校現場では「みんな同じが良い」「そろっている」と見ええが「いい」という感覚にとらわれている。現場の実態をよく見て、改善するよう動いてほしい。

六月から八月に開催された行事報告です。それぞれの参加者に報告記事を依頼しました。コロナ禍で集まる機会が減っていましたが、感染対策を十分に行ない、以前のような活動や学習会が次第に活発になってきています。

共済力フエ

6月29日、伊勢崎工業高校で共済力フエをおこないました

当日は伊勢崎で42度を記録する暑い日となりましたが、冷房の効く音楽室を会場に、9名の方にご参加いただきました。コロナ禍ということで、例年のようにキーキやコーヒーを用意することはできませんでしたが、参加者と会場にはゴディバのチョコレートクッキーをお渡しし、大変喜んでいただきました。短い時間ではありましたが、全教自動車保険の説明と全教共済の説明をおこない、5名の方の加入がありました。現在、後期の共済力フエも企画

中です。日時やお菓子などのご希望がございましたら、お気軽に本部までご連絡ください。(本部)



高崎支部定期大会 7月21日(木)、高崎支中央公民館にて高崎支部大会が開かれました

高経附の内川さんと坂本さん、高商の星野さん、高東の塚田さん、本部から澁谷委員長の計5名が参加しました。多忙の中、残念ながら参加で

きない分会もあり、少人数での開催となりましたが、組合員が顔を突き合わせて行う会議はやはり楽しいものです。それぞれの学校の実情が語り合われ、現場の大変さを感じながらも、元気をもらって帰れる大会となりました。今ではこのような大会を開くことができる支部も高崎のみとなつてしまいましたが、たとえ細々とはあっても継続することには大きな意味があると感じさせる大会でした。(執行委員長 澁谷)

青年部サマー

パーティー開催

コロナ禍に見舞われて以来、初の青年サマパ、7月16日ついに復活!

思えば新型コロナウイルスの流行によって、今まで当たり前のようにしてきたことができなくなり、新しい「当たり前」への適応を否応なしに求められるようになった。「同年代の組合員との交流」とい

う、今までだったら青年部の活動の根幹にあたる行事も簡単に開催できない現状にもどかしさを感じていたのは私だけだろうか。

そのような状況の中、二年ぶりの開催となったサマパーティーでは、合計8名の参加者を得て交流を深めることができました。とある方との考古学談義に盛り上がり、つい話し込んでしまったのは良い思い出である。コロナ禍となつて、学校に求められることがまた変化してきている。その変化にどのように対応する必要があるのか。自分の所属す



る勤務校を超えて、お互いに色々な話ができるというのが非常にうれしかった。

青年部の活動について、社会情勢をにらみつつということになりそうだが、徐々に動き出していきたい。(高商 東海林)



伊勢崎支部交流会

「たまにはホンネで
語ろう会」

7月21日(木)、伊勢崎支部交流会を開催

20代から60代のOBまで、幅広い年代の11名が集まって、職場や年齢差を越えて楽しく飲み、語り合った。話題は職場のこと、趣味のこと、政治のこと、採用試験のことなど、実に幅広く、時にマニアックに、時間を忘れて大いに盛り上がった。組合の行事に初め

て参加した20代の先生は、「教員となってから飲食をしながら人と話す機会はほぼ無く、とても楽しく、かつ新鮮な気持ちで過ごすことができました。先生方のポジティブな話もネガティブな話も含めて非常に興味深く、よりたくさん先生方とお話することができればという思いが募りました。また、是非参加させていたきたいと思えます」と感想を述べていた。

コロナ禍によりこうした集まりはほとんどなくなってきました。今回の会にしても、企画した六月の時点では感染が落ち着いていたが、七月に入り再び感染が拡大する中での実施であった。それでも、会を開いて良かったと思つ。やはり人と会い、同じ空気を共有する中でしか得られないものがある。後日、職場の同僚から次のような話を聞いた。「埼玉で教員をしている大先輩時代のゼミ仲間と久しぶりに会って話しました。埼玉と群馬の学校運営の違いが大きくて、驚いてしまいました。友人にも『群馬の教員、めっちゃ忙しくてヤバイね!』と

言われてしまいました。自分の経験している範囲しか知らない、それほど悪い状況とは気づかないものですね。まだまだ働き方を改善する余地はあるんだと思いましたし、こういう視点で組合の先生方は動かれているのだと思えました」

人と会って話すことは大事だ。これからもコロナを過度に恐れずに、人と会い語り合う会を企画していきたい。(伊勢崎晴明 多賀谷)

くるまの学習会

7月27日、8月9日の両日、ZOOMによる「全教自動車保険・くるまの学習会」が開催されました

はじめに、担当の小笠原書記より、全教共済は労働組合がおこなう相互扶助(助け合い)の一環としておこなっているため、給付に必要な経費や運営に必要な最小限の経費があれば十分なので、安い掛金と大きな補償が実現できること。また、教職員の手でつ

くられているため、教職員の声が反映された充実した補償内容になっていることなどの紹介がありました。交通事故から教職員を守るためにつくられた全教自動車保険は、一般の自動車保険と違って刑事責任まで視野に入れた特別な対応をおこない、教職員の身分を全力で守ることなどの説明がありました。続いて東京海上日動の事故場内でのちよつとした注意で事故が防げることや、ドライブレコーダーがあることで事故を円満に解決できることなど、今後の安心安全な自動車ライフに向けてとても参考になるお話でした。

この機会にぜひ全教共済・全教自動車保険をご検討ください。ご質問やご相談がある方は高教組本部までお問い合わせください。お待ちしています。(本部)

平和学習会

8月2日、本部執行委員企画で平和学習会を行いました

3月26日の憲法闘争交流会で紹介された、沖縄の現状を伝える三上智恵監督のドキュメンタリー映画をもとに開催しました。

辺野古基地反対運動とその背景。沖縄県知事選挙における県民の意識。基地移転に対する日本政府の強硬な姿勢など。今から十年ほど前の映像と発言を通じ、表面化しにくい事柄が多く描かれています。内容の多くは、基地建設に反対する立場と、同じ沖縄県民でありながらそれを制圧する警察側の立場などが対比



的に表現されてきました。

沖縄県内の細かい報道を目にすることはほとんどありません。地上戦を体験し、今なお身近な問題として戦争を捉えている沖縄の人々の考えや行動を軸に、今現在進行している台湾問題が他人事ではなく、状況次第では日本全土が戦場となり得る危険性を考えさせられる内容でした。

今後も、沖縄を中心としたミサイル基地建設問題。防衛から先制攻撃へと方針転換しようとしている防衛問題。シーレーン防衛問題など、多くの人に正確な情報を知ってもらい、日本や世界を戦争に陥らせることのないよう活動を続けていく必要を再確認しました。平和学習会は今後も継続します。(執行委員 吉澤)

クロムブック

活用講座

8月22日(月)午後9時〜10時オンライン開催

講師は高商の東海林聖弥さん。参加者は6名。センスの良いちょっと目立つ色合いのチラシが印象



的で、ぜひ参加しようと思いい他の先生にも声をかけました。クロムブックの活用は、群馬県下、どの教育現場でも大きな課題です。清陵高校も七月末に授業改善に関する校内研修があり、活用事例報告や実習をしましたが、夏休み中も職員室では、クロムブックを用いた教材作りがあちこちで見られました。

さて、当日は東海林さんから高商での職員・生徒の連絡ツール、学年会議議事録、授業など、様々な場面での活用について今後の課題などが報告されました。スプレッドシートを共同編集にして議事録をとること、効率化に成功しているとのこと。また、Googleフォーム

による問題作成では、セクションを入れることで見やすくならという小技も教えていただきました。報告後の質疑応答では、質問者が日頃クロムブックを利用する際の悩みや疑問が出され、情報交換の場となりました。東海林さんと伊勢崎清明高校の千明さんとのかけあいも興味深く聞かせてもらいました。参加した同僚に感想を聞くと、Googleフォームの使い方については画面上で操作の過程を見ることができて、大変わかりやすかった。平日の夜であれば参加しやすい、とのことでした。最後に東海林さんが、授業では全てをデジタル化することはない。自分の手で書くことも大切であり使い分けが必要だ、と言われたことに深く納得。クロムブックはあくまでもツールの一つだと改めて確認しました。今後も、こんな活用方法が有効だった。こんな問題があるけれどどうしようなど、情報交換の場がほしいと思います。活用講座第二弾の開催を期待しています。(前橋清陵 田口)

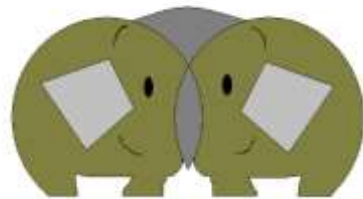
復活☆ぐんぞうくん

コロナ禍中でも組対部(萩原&小笠原)の職場訪問は続けていますが、新採者の組合加入には結びついていません。そんな中、夏休み中に高商と伊特支で組合員拡大がありました。年度内にはぜひお二人の歓迎企画を催したいと考えていますが、できればもっと賑やかな方がいーよねー。

みなさん!『組合活動の本質とは何だと思えますか?』

それはやっぱり「つながる」ことですね。コロナ禍で、組合活動だけでなく、職場でのつながりも希薄になっているような気がします。でもね、コロナのせいばかりにはしてられませんよ!「今できることをしっかりやりきる。」そんな地味でしんどい活動の積み重ねがやがて運動へと広がり、体中を駆け巡る血潮のように各職場へと伝わってゆくのだと考えています。〈萩〉

ぐんぞうくん



お知らせ

今回の月報作成にあたっては、多くの方々より寄稿していただき、感謝申し上げます。極力原文の表現を保つよう努めてはいますが、情宣部校正担当の修正が入ることもあります。ご了承ください。